

# 第2回 幼保小連絡会のまとめ

=17小学校区における話し合い=

日時：平成29年(2017年)1月19・20・23・26・27・30日実施

会場：17会場…小学校・認定こども園・幼稚園・  
保育所(園)・児童発達支援センター

## 蛭池・刀根山小学校区

【参加人数】 小学校(7)名 こども園(5)名 幼稚園(5)名 保育所(園)(7)名 児童発達支援センター(0)名

### 1、小グループでの交流

第2回連絡会テーマ：「話を聞けるようになる力」「思いを言葉にする力」をつけるために

- ・「聞く力」・・・話を聞き、相手の気持ちを考えられる子
- ・「伝える力」・・・自分の思いを相手に伝えられることで、自信を持てる子
- ・「関わりを持てる力」・・・相手の気持ちを考え、分かってあげる子

以上の「3つの力」をつけるために、各校園所で取り組んできたこと、その成果と課題を交流し合った。また、保護者支援の在り方についても、話し合った。

#### ○「3つの力」をつけるための取組み

- ・耳と口の絵のカードをつくり、「聞く時」は耳の絵のカードを、「話をする時」は口の絵のカードを視覚的に示し、メリハリをつけるようにしている。
- ・マッピングを話し合いのツールとして活用している。子どもたちが主体的に考えて、話し合いができるようになってきた。
- ・「やらされている感」にさせないよう、遠足の行先や運動会の種目などを、子どもたちの意見をまず聞いて決めていくようにした。否定しないで子どもたちの話を聞くことが大切である。
- ・まず、ペアや小グループで話し合う機会を増やす。少しずつ自分の思いが伝えられるようになり、それを集団遊びやグループ活動につなげていく。年少の3歳児でも話し合いができるようになってきている。
- ・単語だけで伝えてくる子どもが多いので、やりとりの仕方や言葉の使い方を教える。(例：「先生、○○。」→「先生、○○を貸してください。」)
- ・相手の気持ちを決めつけてしまう子どもがいる。「どんなきもちカード」を使い、自分の気持ちを伝えられるようにしている。
- ・聞く時は姿勢を正し、「しー」の合図で静かにするということを、常に意識づけている。

#### ○「保護者支援の在り方」について

<保護者の様子>家庭事情が複雑化してきている。家庭の様子が見えない。SNSでの保護者間のトラブルが増えている。何を考えているのかがわからない親(ワンダーペアレント)が増えている。子ども同士のちょっとしたトラブルにも過剰に不安感を示す保護者がいる。

- ・家庭訪問等で、顔を見て話をするようにしている。
- ・連絡帳や通信等で、取組みを丁寧に発信している。
- ・子ども同士のトラブルがあったときは、双方が納得したかどうかをしっかりと確認してから降園させている。

### 2、今後の課題・まとめ

- ・先生がどれだけ子どもたちの話が聞けているか。一步引いて、子どもたちのやりとりを「見守る力」も先生には必要である。
- ・子どもたちの姿や大事にしていることを、幼保小がお互いに知り合い、日々の活動につなげていくことが大切である。

# 克明・箕輪小学校区

【参加人数】小学校(6)名 こども園(4)名 幼稚園(6)名 保育所(園)(3)名 児童発達支援センター(0)名

## 1、 基調とした発表

### ◎ぶっこう幼稚園より

- ・年長組のねらい・最高学年であることに自覚を持ち、責任を持って行動する。
  - ・何事にも意欲的に取り組み、充実感、達成感を味わう。
  - ・自分の考えをしっかりと持ち、言葉で相手に伝えよう。

このねらいに沿って1年間の取組内容、行事など写真入りの資料で、具体的な紹介があった。年長組としての内容豊富な取り組みで子どもたちに多方面にわたる力をつけている。3学期には小学校1日体験をし、子どもたちは小学校入学への期待を深めている。

### ◎克明小学校より

- ・克明小学校のめざす子ども像 [自分をみがこう、仲間とつながろう、夢をもとう] を目指し、学年で大切にしてきたこと。

①自分が好き…スピーチ、いまだんなきもち、はじめてのおくりもの

②友だちが好き…いいところみつけ、はじめてのおくりもの

※①②のはじめてのおくりもの…名前の由来を聞く。

おうちの人と5・7・5の歌で気持ちを伝え合う。

③学校が好き…学校ではたらく人、学校給食

- ・1年間取り組んだたくさんの生活科の取り組みの紹介があった。3つのねらいを目指した人との関わりを大切に活動を通して、自分のよさに気づいたり、友だちから良い所を言ってもらう中で、自分も友だちも大切にできる行動が見られるようになった。

## 2、 話し合った内容

◎参加各小学校・園から、子どもたちの姿や取り組みや、大切にしていることを伝え合った。

・園からは「人の話が聞けるようになる」ということや「友だちの気持ちに気づく」

「自分に自信が持てる」心を育てるなどの為、それぞれ具体的な取り組みを出し合い学びあった。

・小学校からは、話を聞くことは相手を受容する力を育むことが大事ということや、実際にあった「いじめ」の報告があった。最初は子どもたち同士のあそびの中でのふざけ合いがエスカレートして「いじめ」になっているということだった。子どもが自分の行動に気づいたり、相手の表情に気づいて「大丈夫？」と聞けることと同時に、親同士がつながっていることが大事ということだった。

## 3、 今後の課題・まとめ

- ・地域に児童養護施設ができる予定で、反対の看板が出るという事態も起きている。しかし、各々の校・園では地域の子どもの迎え入れて、楽しく園・校生活を送れるようにしていきたい。子どもたちに伝えていきたい。
- ・子どもたちの姿を伝え合い知り合い、子どもたちが人間らしく成長していけるように今後も交流していきたい。

# 桜井谷・桜井谷東・箕面自由学園小学校区

【参加人数】小学校(9)名 こども園(5)名 幼稚園(7)名 保育所(園)(2)名 児童発達支援センター(3)名

## 1、 基調とした発表

### 桜井谷こども園の発表

『“自分ってイケてるやん”を自信に』～5歳児クラスの1年の取り組み～

保育を進める中で①身の回りのことが自分でできる。②困っているときに言える。③自分のことが好き“なんとなくイケてるやん”という自尊感情を育てていく。④困っている子をほっておかない。の4点を大切にしてきた。初めは自信がない、初めてのことが苦手な集団だった子どもたち。そんな中グループ活動や当番活動、菜園活動など、子どもたちの自信に繋がる活動を多く取り入れてきた。

運動会では、自分の思いを上手く伝えることが苦手で、普段受身になってしまう子どもの視点にツールをあて、その子の思いを出しやすい場をつくっていくというねらいを持って取り組んできた。子どもたちは、友だちの励ましもあって、できなかったことができるようになっていく自分に自信をつけてきた。何かをしようと自分たちで考えて繋がっていく力が育ってきている半面、その力が悪い方へ向かってしまいトラブルになることもあるが、自分たちで解決しようとする姿が見られた。自分で気持ちを伝える力は、自分ってちょっとイケてるなと思えないとなかなか気持ちを出すことができない。自己肯定感を少しずつ積み重ね、嫌なことを嫌と言える力、興味のあることに自信を持って取り組む力をつけて小学校へ送り出したい。

### 桜井谷小学校の発表

『入学までにつけたい力“ともだちいっぱい・笑顔いっぱい”』～1年生の1年の取り組み～

入学したばかりの子どもたちのスタートラインは一人ひとり違う。初めての仮名文字指導では、はさみで紙を切る、手でちぎる、色を塗る等の幼稚園、保育園などで行っていた活動から入り、安心感が持てるように配慮をしてきた。文字学習の前に鉛筆を使って、紙いっばいに線を描いたり、絵描き歌をして、手首を柔らかく、なめらかに動かすことができるようにしてきた。その後も、文字に応じて、折り紙や粘土を使って字形を表現する、字書き歌を作るなど集中がとぎれないように工夫して授業を進めてきた。

2学期からは“聞く姿勢名人”“聞き方名人”“話し方名人”など大切な力をつけるため、発表が苦手な子も、周りの友だちの助けや励ましを受けて、少しずつ自信を持って発表できるようになった。授業も本格的な学習になり、時計の読み方、物語の心情理解、運動技能、生活面など個人差も出てくる。そんな中友だち同士教え合ったり、担任が子どもの頑張りをしっかり褒めることから、意欲的に活動に取り組むようになっていった。

子どもたちだけでなく、お家の方々にも一緒に理解していただき、協力していただくことから、それが子どもの力にも繋がっていく。学校、家庭、地域が連携した共通理解のもと、これらの教育活動も行っていきたい。

## 2、 話し合った内容

### <生活面>

- ・給食が時間内に食べられない。好き嫌が多い。お箸がうまく使えない。  
家庭によって考え方が違う(「食べさせてほしい」「無理に食べさせなくてもよい」)  
自分で「減らしてほしい」「食べられない」を言えるようにしている。
- ・和式トイレがうまく使えない。トイレトーパーがうまくちぎれない。
- ・座らないと靴がはきかえられない。
- ・着替えに時間がかかる。脱いだものがぐちゃぐちゃにならないように。
- ・上も下も両方脱いで着替えている。(幼稚園でもある姿)

### <学習面>

- ・文字に関しては、知っている子と知らない子の差が大きい。  
読める、書けることよりも、筆圧や、手首の柔らかさ、興味を持たせることが大切。
- ・45分の授業時間が持たない。集中力が持つよう、小学校では工夫している。
- ・自尊心の少ない子どもが多い。

### <その他>

- ・保護者の方同士、メールであれこれやりとりをしている。  
どんどん話が大きくなったりして、正しい情報が広がらず、間違った情報が広がることが多い。  
その辺りも今後の課題。

## 3、 今後の課題・まとめ

計算のように正しい答えははっきりしないが、そこに繋がるヒントとして、さまざまな場面で活かしていきたい。

# 大池・少路・上野小学校区

【参加人数】小学校(14)名 こども園(7)名 幼稚園(6)名 保育所(園)(4)名 児童発達支援センター( )名

## 1、 基調とした発表

上野小学校から 「生活の中で友だちとつながる力を育む実践発表」

1年生の学年目標 「やる気 元気 大好き」

お互い助け合い、ともに成長していく集団作り

学年の取り組み

ぽっかぽかの木 ころろがぽかぽかする言葉であふれた優しいクラス

運動会の取り組み 目的意識をもって競技に取り組む

学年発表会 クラスの垣根を越えて多くの友だちと関わる

気持ちダイアリー 子ども自身の振り返り 等

子どもたちが相手の気持ちに寄り添い、思いやりのある行動ができるように。

## 2、 話し合った内容

発表の後、3つの小学校区に分かれて、上野小学校の取り組みを参考に、サブテーマ「幼保小での生活の中で友だちとつながる力」を日常の取り組みの中で、どのように育んでいるかについて意見交換と、子どもの実態について情報交換を行った。

○4月、新しい人間関係の中で、小学校生活が始まる。

人のことより、自分のことをするのが精一杯

こども園、幼稚園、保育所では、周りが見えていた子どもたちも、必死で先生の話聞いて頑張ることからスタート

○小学校では、友だちと関われる行事や活動、友だち同士が意識し合い認め合える取り組みを大切に進めている

○生活の中で友だちとつながる力を育む場面（こども園・幼稚園・保育所では）

特に思いやりの大切さ、お互いに関心を持ち合える場面の例

異年齢交流の遊びの中で子どものつぶやきを取り上げる

遊びの中から関係性の構築。遊んで共感する

遊びを作る中で、仲間に入れたい友だち、しっかりと意見の言えない友だちのことを考え合う

## 3、 今後の課題・まとめ

小学校では、友だちを知ることにつながりを作ることから、4月はスタートする。

こども園・幼稚園・保育所では、その基盤となる、友だちを思いやる心を遊びをとおして、育んでいる事がわかった。

自分のことは自分でする、人の話を聞く力等の生活習慣の定着についても引き続き交流会で取り上げる。

# 野畑・北緑丘小学校区

【参加人数】 小学校(7)名 こども園(5)名 幼稚園(11)名 保育所(園)(3)名 児童発達支援センター(0)名

## 1、 基調とした発表

- ・ メインテーマ 「幼保小教職員連携を深める中で子どもにつけたい力とは」
- ・ サブテーマ 「一人ひとりの子どもを大切にしたい引き継ぎのありかたとは」
  - … 2チームに分かれて話し合い、小学校と幼稚園・保育所との引き継ぎをどう思うか発表しあった

## 2、 話し合った内容

### ○ 引き継ぎのあり方について

- … 5月頃に日にちを設定して、小学校へ元(年長組)担任に授業を見に来てもらっている。その元担任から聞き取りを行い、成長を見守る。[小学校]
- … 3月上旬にクラス編成をするので、2月に引き継ぎや聞き取りを行っている。気になる子の対人関係やコミュニケーション力を重点的に。[小学校]
- … 小学校の授業を参観させてもらい、卒園後の成長が分かった。[幼稚園]  
→ 今後も続けてください。
- … 小学校の掲示物や作品を見せてもらい、入学後の様子が分かりやすかった。[幼稚園]
- … 卒園した園児の保護者から「園と小学校の連携が取れているのが分かって安心した」と言われた。[幼稚園]



今後も続けていく必要があるとの意見が大勢を占めた。

- 幼稚園・保育所から小学校へは参観・見学等に行きやすいが、小学校からは授業があるので行きにくい。どうすれば行けるか意見を出し合った。

## 3、 今後の課題・まとめ

- ・ 小学校へ上がる時、気になる子がいる場合にのみ聞き取りや申し送りをする傾向があるが何もない場合でも連携・交流をしていきたい。
- ・ 私立幼稚園には、建学の精神に基づいたそれぞれの園の教育方針があり、小学校にはその色々な幼稚園や保育所から児童が入学してくるので、1学期は特に大変である。小学校の教員は、「未就学児の動きが分からない」「イメージがわからない」ため、小学校の担任が1日保育を見学できる日があればありがたい。小学校は夏休み中なら都合がつくが幼稚園も休みになるのでどうすればよいか。(保育所は夏休みが無いので大丈夫。)見学するのは1年生の担任がベストだが、翌年度に誰が1年生を受け持つか分からないので、長い目で見て、1年間に誰か1人は見学に行けるようにしていきたい。
- ・ 幼稚園・保育所側も、日にちを設けて小学校の先生に来てもらう態勢を作っていく。

# 南丘・新田・新田南・西丘小学校区

【参加人数】小学校 (17) 名 こども園 (7) 名 幼稚園 (2) 名 保育所 (園) (4) 名

## 1、基調とした発表

各校園所の取り組みと子どもの実態の交流をした。

## 2、話し合った内容

### 小学校入学に向けた園所の取り組み

- ・子どもたちが、落ち着いて学習する姿勢を保育園や幼稚園の頃から養っていく必要がある。そのための環境を整える必要がある。例えば、外遊びから教室に帰ってくる時は、全員が揃うまで席について待つなど、落ち着いて、子どもが話を聞けるような工夫をしている。また、話に集中して聞けるように、話を始める前に手遊びを入れるなどの工夫をしている。どの取り組みも毎日の繰り返しが大切である。
- ・ハンカチ、ティッシュなどを個人もちにさせたり、持ち物の用意が自分でできるように、チェックカードなどを配って指導したりしている。
- ・時間を意識できるよう、時計を見る習慣を身につけさせている。
- ・牛乳を 200ml 測り、飲みきれるように練習する。

### 入学時の段差を少なくするための小学校の取り組み

- ・小学校＝勉強とならないように、学校は、楽しいところと、まずは感じられるように工夫している。
- ・45分続けて学習するのではなく、15～20分を一区切りにして授業をして、子どもが集中できるようにしている。
- ・粘土なども使って、ひらがなを学習するなど、五感を使った学習をしている。
- ・トイレの使い方なども、一から教える。視覚支援も入れて、分かりやすくしている。

### 子どもの実態、保護者の実態、配慮を要する子どもへの支援

- ・支援学級に在籍が必要と感じられる園児には、早くから来年度入級するかどうかを決めている。
- ・支援学級に在籍する子どもを持つ保護者の同士のネットワークを就学前から作れればいい。
- ・気になる子どもについては、新年度になってから、もう一度聞き取りに行く。

### その他

- ・保護者がラインでつながり、トラブルもあった。注意して対応していく必要がある。
- ・社会性（ルール）を身につけるのが難しかったり、考え方、受け止め方の低年齢化が見られたりする。

## 3、今後の課題・まとめ

- ・段差の解消に向けて、テーマを決めて、協議していく必要がある。

# 東豊中・東豊台・東泉丘小学校区

【参加人数】小学校（14）名 こども園（4）名 幼稚園（7）名

## 1. 連絡会で話し合った内容

①テーマ…「幼保小の連携を進める中で、子どもの情報をいかに伝えるか」

②観点として ・優先すべき情報は何か

・それをどのような手法で伝えれば良いか

・情報はどこまでの範囲、伝えるのが良いか

③4つのグループに分かれてワークショップ形式で実施

④主な内容

- ・小学校に伝える際、支援が必要である子以外でもできるだけ詳しく情報が欲しい。どうしても文書での引き継ぎではなく、口頭での引き継ぎになるので複数で話を聞ける体制がとれたらいいと思うが、先生の時間と人数が問題となる。
- ・個別に声かけが必要な子（話がきちんと聞けるか、すわっていられるか等）の情報もほしい。
- ・子どもだけでなく保護者が不安を感じている事や良い面も情報がほしい。
- ・子ども同士や保護者同士の関係（ひっついたり、離したり等）もほしい。
- ・情報を伝える十分な時間を確保したい。また、得た情報を小学校内で確実に引き継ぎができるシステムが必要ではないか。
- ・4月以降、少し経って幼稚園、こども園と小学校の児童についての交流があれば、気になる子についてももっと深く話ができるのではないか。

## 2. 今後の課題・まとめ

① 先生方の気持ちは校種が異なっても子ども達を思う気持ちは同じで、少しでもスムーズに引き継ぎができ、順調に小学校生活が送れることを願っています。

情報提供の仕方や個人情報の管理においてはまだまだ課題はありますが、このような連絡会を軸として、園の行事、小学校の行事の交流が深くなれば良いと感じた交流会でした。

② 体験入学については、東泉丘小 2月28日

東豊台小 2月 9日

東豊中小 2月22日 に実施する事になりました。



## 東丘・北丘小学校区

【参加人数】 小学校5名 子ども園3名 幼稚園12名 保育所3名

### 1. 基調とした発表

東丘小学校 1年生の様子

道徳の授業でNHKの番組「がんこちゃん」を視聴し、意見交流している授業風景のDVDを見ながら発表

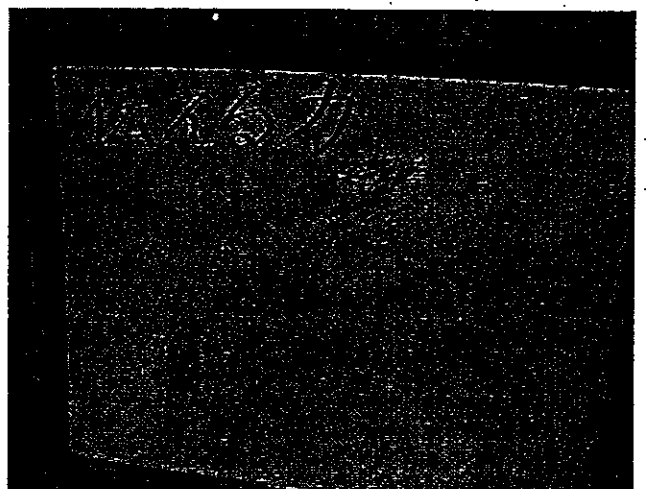
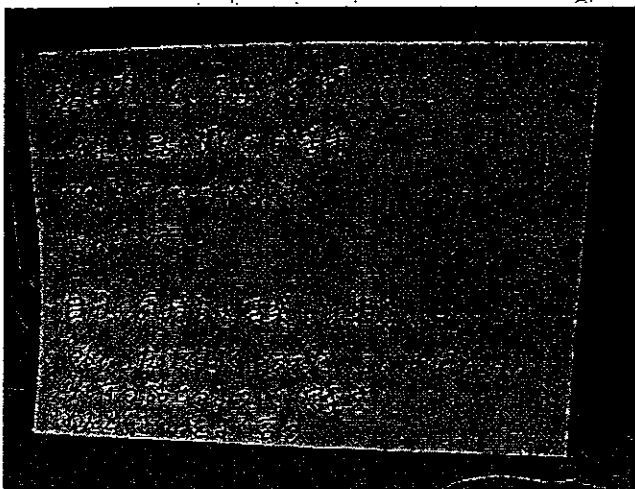
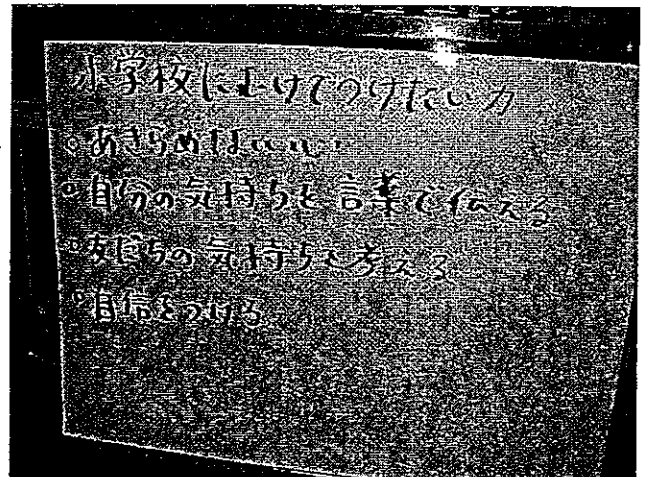
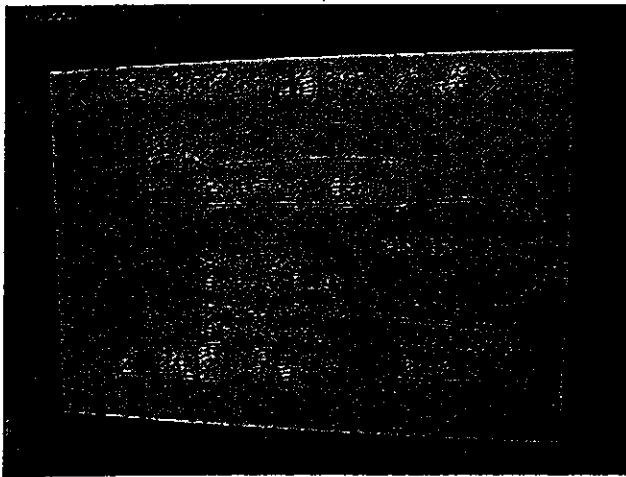
### 2. 話し合った内容

- ① 幼稚園・保育所でどんな力をつけて小学校に入学してくるのかを、グループ討議する
- ② 各グループでの討議を交流し、共通理解をする。

### 3. 今後の課題・まとめ

○小学校入学時の児童の成長を把握しておくことが、小1プロブレムの対策になるであろう。

○幼・保・小の交流をもっと深めて、子どもたちの実態交流を共通理解していくことが重要である。



# 桜塚・南桜塚小学校区

【参加人数】 小学校(8)名 こども園(1)名 幼稚園(8)名 保育所(園)(9)名 児童発達支援センター(0)名

## 1、 基調とした発表テーマ

講演「お子さんが元気で楽しい学校生活を送るために」

「生きる力」を育みましょう

講師 豊中市教育センター 教職員育成支援指導員 木場敬子

- ① 「就学前相談」で保護者に話していること
- ② 「どきどき わくわく とよなかっこ」について
- ③ 「スタートカリキュラム」について
- ④ 小学校入学に向けて具体的にできること。
  - ・入学式で歌う歌を事前に知らせ、練習しておく。
  - ・入学式翌日からの流れを伝え、子どもや親にイメージを持たせる。
  - ・不安が強い子には、事前に登校させ、不安を取り除くようにする。
  - ・学校に期待をもたせるようにする。
  - ・こども園・幼稚園・保育園での学びを意識し、丁寧に接続してほしい。
  - ・保護者に望めない子どもへの配慮が、大切。
  - ・子どもが段差を乗り越える力も大事。
  - ・むだな不安を取り除く工夫や配慮のための連携の重要性。

## 2、 話し合った内容

参加者26名を4つのグループに分け、各グループで、自己紹介と現在の子どもの様子、課題について話し合った。

- ・小学校のクラス分けに際して、配慮事項等を連絡する。
- ・身辺自立が十分できていない子どもに対して、配慮をしてほしい。
- ・1つの園から数名しか同じ小学校へ通わない場合の配慮。

## 3、 今後の課題・まとめ

今後も、互いに取り組んでいることや、出来事(行事)を具体的に伝え合うことで、入学前の子どもや保護者の不安を軽減させたい。つまり、小学校は0からのスタートでなく、幼稚園・保育所で積み重ねたところからの発展と考えていく。

## 熊野田・泉丘小学校区

【参加人数】小学校(9)名 こども園(4)名 幼稚園(3)名 保育所(園)(8)名 児童発達支援センター(0)名

### 1、 基調とした発表 テーマ 幼保小教職員連携を深める中で子どもにつけたい力

- コミュニケーション能力と想像力の2点を大事にしてきている。(熊野田小)
- 人間関係づくり、学習の基礎、話し方聞き方の学習、調べ学習を通して友達のことを聞きあう。水族館の遠足から作品作り。トラブルがあった時どうしてほしいのか伝え合う。(泉丘小)
- 人とかかわる力、トラブルを自分たちの力で解決していく。絵本の読み聞かせ、生活発表会での劇づくり、合宿(生活を自分たちで営む)などの取り組み。(おひさま保育園)
- トラブルなど子ども同士で解決できるように見守る。人の話を聞く力と友達の気持ちを読みとる力を育てている。(ゆたか保育園)
- 運動面の発達の取り組み。朝チャレンジと題して、35項目の運動遊びを実施。タッチボール、平均台、雑巾がけ、友達と協力しての押し相撲などなど。リレーなどの作戦を子どもたちにさせている。自分たちで生活を進め、考えを言葉で伝える力を育てる。(ゆたかこども園)
- 自分の気持ちを話す。体幹を鍛える。マラソン大会の取り組みなど。当番活動や異年齢との交流、お年寄りとの交流など、小さい目標を設定し意欲的に取り組ませる。(旭丘こども園)
- 話を聞く力、自分で考えて行動する力をつける。大きな行事(運動会、発表会)でどんなことをしたいか話し合っている。また、小さいこと(どんなお花を植えようかなど)も話し合いで決めている。子ども同士がお互いに認め合うようにしている。(くまのだ保育園・幼稚園)

### 2、 話し合った内容

- 生活リズムができていない家庭がある。入学後不登校になるのではないかと。
  - ・こども園、保育園や幼稚園は保護者の送り迎えが必要であるが、学校は自分で歩いての登下校になるので、家を出してもらえれば、登校につながるかもしれない。
  - ・「夜9時には寝ようね。」と子どもに声かけをしている。毎日次の日のお楽しみ、給食だったり、行事だったり伝えていく。
  - ・学校は別に行かなくてもいいという意識の保護者がいる。
- 卒園児の保護者から、小学校に入ってから字が書けないことを強く言われ、落ち込んだという話があった。どうなのだろうか。
  - ・小学校の入学説明会に、自分の名前だけは読めるようにしてほしいとお願いしている。入学して、自分の席やくつばこ、ロッカーなどがわかるように。ひらがなを書くのは入学してきてから学校で学習する。
- 園によって、保育内容が様々なので、「あの園の子どもは落ち着きがない。」などの話を聞く。そのようなことはあるのか？
  - ・学校ではどこの園を卒園しているのか、書類で確認しなければわからない。入学後特に気になる子どもについて、園に聞き取りをしている。
- 2月21日(火)の幼保小の交流会を実施。園から小学校に来てもらい交流する。

### 3、 今後の課題・まとめ

今後も、幼保小の交流を実施していく。

## 中豊島・緑地・寺内小学校区

【参加人数】小学校(12)名 こども園(6)名 幼稚園(5)名 保育所(園)(5)名 児童発達支援センター( )名

### 1、 基調とした発表 サブテーマ「気持ちを言葉で伝えよう」

### 2、 話しあった内容

緑地小学校→言語能力を高めるため、指導の中で一つ一つ丁寧に言葉を伝え足りないところは補う。

中豊島小学校→話し合い活動を行い司会をたてて話し合うことで、自信を持てるようになってきた。スピーチを取り入れることで2～3文は話せるようになってきた。

寺内小学校→気持ちを伝えるために気持ちカードを利用した。

豊中ほづみ保育園→気持ちカードを取り入れどんな気持ちがあるの考えられるようにした。

てしまこども園→どんな遊びをして楽しかったのか気持ちのカードを取り入れた。

てらうちこども園→困っている子がいたら気づけるようにしている。

ゆたか保育園→トラブルがあった際にすぐに保育者が入るのではなく子どもたちで解決できるようにしている。

服部こども園→グループ活動を通して苦手なことなど自分の思いを伝えることができる。

服部幼稚園→何に困っているかが言えるようにしている。言葉の文章を増やし自分の伝えたいことの伝え方を知る。

服部みどり幼稚園→発見したものをみんなで話し合う姿が見られた。

あけぼのぶんぶん→乳児期に同じ担当が関わることで安心感や信頼関係ができる。

保育者が気持ちを受け止め、満たされることを大事にしている。

あけぼの保育園→気持ちカードを取り入れ気持ちを考える場を作っている。言葉でうまく伝えられないことも伝えられるようになってきた。

### 3、今後の課題・まとめ

自分の気持ちを伝えられない子が増えてきているが、グループ活動やスピーチ、気持ちカードを通して子ども同士で話し合ったり、苦手なところを乗り越える力をつけてきた。

保育者が子どもの気持ちを受け止め自己肯定感を持てるようにすることが大切である。

## 豊島・豊島西小学校区

(参加人数) 小学校 10名 こども園 1名 幼稚園 5名 保育所 5名 児童発達支援センター 3名

### 1. 基調とした発表

発表校 豊島小学校

#### ◎自分で考える力

- ・先生の指示は一度できき、できるだけ自分で理解する
- ・「今何をすべきか」を、自分で考えて行動する
- ・課題にぶつかったとき、友達と相談して解決策を考える

#### ◎人前で発表する力

- ・国語の物語文における音読発表会

#### ◎団結力

- ・運動会 (ダンスの練習時、自分以外のクラスのダンスを見て、良いところを見つけあった)
- ・学習発表会 (一つのチームとなって、合奏・合唱を互いに聴きあい、一つのものをつくりあげていった)
- ・国語科「スイミー」を通して (みんなで力を合わせることによって大きなことが成し遂げられるということを学んだ)

#### ☆質疑応答

- ・こどもが成長していると感じた。
- ・楽しい中で力をつけていると思った。
- ・自分で考えて小学校にあがる時に自分のきもちを伝えられるようになってほしい。
- ・ガミガミいうよりか、やりたいと意欲があるので大事にしてきた。
- ・自分たちで生活していく力、こどもたちと考えると、保育者の声掛けも少しずつ減らしていけたらいい。
- ・こどもが感じている感情を言葉にしてこどもたちに寄り添って関わっていく。

### 2. 話し合った内容 (5グループに分かれて、意見、実践交流、テーマについて話し合う)

- ・習慣をつける、繰り返すことによって聞く力をつけていきたい。幼保小が連携して、こどもの自尊感情を育てていきたい。
- ・幼保小どこもよく似た取り組み異年齢交流などを行っている。教え合いの中で、自信を持たせたり、自分の思いを相手に伝える取り組みをしていて、幼保から小学校へ取り組みが引き継がれていた。
- ・就学前の施設の先生方は授業を見ることがなかったので、小学校のイメージを持ててよかった。また、園でやれることを考えていきたい。
- ・こどもが自分でやるように手伝うだけでなく教えていくことが大切。またやりたいという意欲を引き出していくことも必要。
- ・自分の気持ちを伝える力の育成、こどもとたくさん話して思いが出ているが、言葉にしていくことが大切。授業に集中させるには自分自身が楽しみながらやっていく、反省しながらやっていく。

### 3. 今後の課題・まとめ

- ・幼保小と交流 (話し合いやあそぼう会など) できて、よかった。
- ・授業が見れてよかった。次回の発表校も「どんなことしているのか・・・」と発表の日に見学できるようにしていく。

# 豊島北・原田小学校区

【参加人数】小学校：(4)名 こども園 (3)名 幼稚園 (2)名 保育所(園) (3)名 児童発達支援センター (0)名

## 1、基調とした発表 → 各園、各校ごとに年長、小学1年生の様子を発表した。

### 超光寺幼稚園

- ・自己主張ばかりではなく、先生の話をしっかり聞けるよう声を掛けている。
- ・単語で伝えることが多いので、文章で話せるよう、落ち着いて伝えられるよう見守りながら声を掛けている。

### おひさま岡町

#### 保育園

- ・単語で話すことが多いので、文章で伝えるよう助言している。
- ・朝、絵を描いてみんなの前で発表する。話す力を付けている。
- ・日直が朝の会を担当し、子供同士の聞く力を付けている。

### 原田こども園

- ・朝の会に「〇〇して〇〇だった」と、どんなことをしたか、気持ちを踏まえて発表する時を持っている。
- ・リーダーが発表する順番を決め、自分達で「聞いて」「静かにして」と言い合っている。

### てしまこども園

- ・帰りの時間に“気持ちカード”などを使って自分の気持ちを伝えている。
- ・グループ活動で、子供同士の話し合いを行っている。

### ひかり保育園

- ・1日に1冊以上、絵本、紙芝居を読む時間を作っている。素話も取り入れて、聞く力を養っている。
- ・自分の言いたいことを友達に伝えられるよう、見守りながら助言している。

### 豊島北小学校

- ・聞く時の姿勢、目線についてクラスに掲示している。
- ・自分の言いたいことを言えるよう、毎日、日記を行っている。
- ・自分の思いをまとめて、順序立てて言うことは、まだ難しい。

### 原田小学校

- ・自分の思いを書くことは大事。発表もしている。
- ・“誰と”、“いつ”を会話に付け加えられるようにしている。
- ・スピーチを行い、聞いた感想も言えるようにしている。
- ・“聞き方名人”、“話し方名人”の表を教室に貼り、子供に聞くときの態度を促している。

## 2、話し合った内容 → 3グループに分かれて話し合いを行った。

- ◇ 現状は聞く力が無い子が多い。「聴く」=心や耳で聞くことが大事である。聞いて考える力を養って行きたい。1日1回発言をする、考えるなど子供達が気付いて聞けるようにしている。こちらが「考えさせる」「言わせる」「書かせる」「聞かないと考えられない」→伝えて行きたい。
- ◇ 絵本の読み聞かせをすると、子供はしっかりと聞いている。聞く力を付けるために、幼稚園、保育園で絵本の時間をこれからも取って欲しい。
- ◇ 保護者が、子供が言おうとしていることを先に言ってしまうたり、返事したりする。保護者への声掛けも難しい。
- ◇ 相手の意見が自分と似ているか、違っているかを色カードを使用し、板書して視覚で捉えさせて行くのも良い方法。
- ◇ “気持ちカード”をきっかけとして、自分の気持ちを言う指導をしている。
- ◇ 大人が先回りをして、何かをしてあげるのではなく、自分で自分の気持ちや要求を言い、大人は「言える」のを待つ姿勢が大切。「聞いてもらって嬉しかった」と言う体験をさせることが大事で、次はこちらの話も聞いてね、とつなげる。

## 3、今後の課題、まとめ → 話し合った内容をグループごとに発表した。

- ◎ 「話を聞かなくて危なかった」「話を聞いてもらえて嬉しかった」→ 聞く力、話す力を関連付けて身に付けていけると良い。
- ◎ 子供達にわかりやすく伝えたい。
- ◎ 聞く力を付けるため、指導者がきっちりと話して行きたい。考える力を付けるために、全員に意見を言ってもらう、考えてもらう工夫をして行く。
- ◎ “聞き方名人”、“話し方名人”の標語をクラスに掲示している。子供達の目に入ることで、意識付けになるのではないかな。
- ◎ 自分で自分の気持ちを伝える機会をたくさん与え、自分の意見を言えるのを待つことも大事。気持ちが言えない時は、“気持ちカード”を使って発言できるようにしている。

## 小曾根・北条小学校区

参加人数 小学校（８）名 幼稚園（５）名 保育所（４）名

### 1、 基調とした発表

発表校・・・北条小学校

学校としての取り組みでは、「話の聞き方」の表を貼るなどして指導を行っている。

あ・あいてをみて

い・いいしせいで

う・うなずきながら

え・えがおで

お・おしまいまで

学年でも、「声の大きさ表」やあいさつの仕方、などのルールの徹底も行い、けんかを行った際も、気持ちを伝え合うこと、自分の気持ちを伝え合えるようにすることなどを大切にしている。また、算数や生活などの授業においても「自分の考えを伝える」・「グループで協力して活動をするなども大切にしている。

また日常生活においても学習と同様に「相手の目を見て話す」「相手に聞こえる声で話す」などを大切に指導している。

### 2、 話し合った内容

北条小学校の発表をふまえて、幼保小それぞれの立場での見解を交流した。

どの立場でも共通していることは、恥ずかしがりやの子どもが多く、そのような子どもたちが安心して気持ちを伝えられる環境を整えることが必要であると確認した。また、子どもたちが自分で言葉にして伝えられない気持ちを周りの大人に察してもらえるのは、幼稚園や保育所、小学校低学年までであり、自分の言葉で気持ちを伝え合うことが大切であることが確認された。

### 3、今後の課題、まとめ

子どもたちが安心して気持ちを伝え合う環境を作ることがとても重要であり、小学校に入学したときにもその安心感が続くように幼稚園、保育所、小学校の連携がより不可欠である。

また、入学前に子どもたちが身につけていたほうが望ましい習慣においても、全体で連携して共通理解することでよりよい方向に向かうと思うので継続していくことが必要である。



# 庄内・野田・島田小学校区

【参加人数】小学校(8)名 こども園(10)名 幼稚園(7)名 保育所(園)(1)名 児童発達支援センター(0)名

## 1、 基調とした発表

第二回幼保小連絡会 テーマ「幼保小教職連携を深めるなかで子どもにつけたい力とは」

・各園、各校代表者が順に幼保小の交流の実践事例を発表した後、今後の課題提案を出し合い話し合った。

## 2、 話し合った内容

(幼稚園・保育園・こども園)

・幼保小の交流会では、家庭的な事の共有は出来るが、子どもにつけたい力等の詳しい話は出来ていない。

・幼保小で交流することで、就学前の子どもたちとしては、安心して進学できるということに繋がっているが、その反面、複数人行く小学校とは交流出来るが、一人で進学する子のところへの見学・交流等が難しい。

・幼保での横の交流もあれば、転入等あった際スムーズで、尚且つ同じ小学校へ進学する他園の他児も知る。ことが出来る。また保護者や子どもも他園を知るというきっかけにもなるので、交流会を続けていきたい。

・卒園児の事も聞けるので交流会は意義があり、幼保小での連携が深くできてきたと感じている。

(小学校)

・引き継ぎも大事だが進学すると、新しい集団ができ変化があるため、個々のケースに合わせて指導していく

・幼保との交流会でするじゃんけん列車を、園児来る前に練習していた。1年生として今までにない年上としての姿を見ることが出来た。

・1年生としては、去年の事思い出せる、次の1年生来るまでにどうすればいいかの対話のツールになる。

・交流会を通して前向きに何事にも挑戦しようとする力を子どもに得て、色々な活動の中で、一人一人がのびていくことが大切である。

## 3、 今後の課題・まとめ

(幼稚園・保育園・こども園)

・交流会の中で、自分で生きていける、学んでいける力を身に付けていくべき。

・交流会が年に何回かではもったいないので、難しい物ではなく、簡単な物でいいので回数を増やすべき。

・各園の教育カリキュラムを小学校に渡すなどの対応もできる。

・配慮の必要な子ども以外の理解が低い。また、園の続きが小学校では、繋がりにくい。

・進学多い小学校は行けるが一人の子が心算即なるので、他の園との(横)の繋がりでカバーできる。

(小学校)

・小学校では、朝から放課後までずっと先生が職員室に帰らず、仕事をしている現状で、気軽に幼稚園に見学に行ってきたらと言いづらく、職員の多忙さをどう改善するかを考えないと幼保との普段の繋がりは難しい。

・幼保小と地域でソフトボール大会もしている。その中でも先生同士の些細な交流が大切。

・言葉で相手に思いを伝える他者の話を聞く・課題話し聞けない子多いため聞く、自分の思いを話せる力の付いている子ども達の内容深めていく事が小学校の仕事なので、この二点は就学前に身に付けてほしい。

・支援と関係ない普段の子の様子を見ること、運動会を見せてもらおうと、年長児、かなり自主的に動いている。

# 庄内南・庄内西・千成小学校区

【参加人数】小学校(5)名 こども園(9)名 幼稚園(6)名 保育所(園)( )名 児童発達支援センター( )名

## 1、 基調とした発表

- 「気になる子どもと保護者への支援の在り方」(千成小学校配属 SSW 土生美枝先生を迎えて)
- ・「気になる子ども」と「気になる保護者」・・・千成小学校区の場合は？
  - ・「支援」について・・・貧困、孤立のサイン(青あざ、転居、離婚)が見えたとき
  - ・保護者から相談を受けたいらすべきこと

## 2、 話し合った内容

### 各園・各小学校での「気になる子ども」「気になる保護者」との対応について

#### 【こども園・幼稚園より】

- 集団生活の中でのしんどさを伝えているが、母自身、家で関わっている分には困っていない様子。  
話をした時は、「そうですね」「そうします」と言いながら動けない保護者がいる。  
⇒親に“支援を必要とする”気持ちが出てこない、話を進めることは難しい。他の子の姿を見る機会をつくることも“子どもの困り感を伝える”手段の1つである。  
小学校へ行ってから気づくこともあるので保護者に具体的アドバイスをしながらアプローチしていく。
- メンタルでしんどさを持っている保護者。(朝起きれない・朝ご飯食べさせてこない・登園時間が遅い…など)  
母自身に気持ちの波があり園の玄関で我が子に暴言がでることもある。  
事務所前で話したそうにしている時は、こちらから意識的に声をかけ、話を聞いている。  
⇒母が“話を聞いてほしい”サインを出したら極力話を聞いていく。話せる人が誰もいない保護者もいるので、その代わりに園でサポートしていきたい。母親自身がしんどいものをかかえて子育てしている。子どもが家で受けることのできない支援を考え、園で支援する。  
⇒解離性の保護者対応…「先生～」と好意をもって来てくれるが、突然攻撃的になる時がある。  
個人のケータイ番号は絶対教えないように。
- 親から受けている言葉を友だちにそのままかけたり、気持ちを素直に出せない子。  
⇒しんどい保護者については、ひとりでかかえこまずクラスと事務所が連携して対応する。  
⇒子ども同士の対応について・・・ソーシャルスキルトレーニング：お互いの言い分を聞くことが大切。ただ「ごめんね」と言わせるだけでなく、その子が思っていることを出来るだけ出せるようにしていく。

#### 【小学校より】

- 登校時間が遅い子・・・ひらがなの部分からつみ残しがある。勉強のしんどさにつながっている。
- 音読の宿題を見てもらえない子・〇のサインがない子・・・自分で読んだら自分でサインしてOKにしている。  
⇒無関心な親・・・懇談でも伝えているが、なかなか持続できない。高学年になると子どもに自分でやっていく力をつける。子どもが家に帰る前に放課後、小学校で宿題をしていく。

●怒りのコントロールができず、よくケンカをする子。

⇒親自身子どもに対応できる時間がない。“あの子は乱暴や”とレッテルをはられることで、余計エスカレートしていく。小学校で褒める場面を沢山つくっていく。肯定的な言葉がけで自分を必要とされている実感がもてるようにする。母に負担をかけすぎると逆効果になることもある。

⇒学校では、支援できることを伝えた上で、家庭でできることとすり合わせて子どもをみていく。

### 3、 今後の課題・まとめ

●子どもが、人間関係がうまく作れない背景には、正しい生活リズムで過ごしていないことや、朝ご飯を食べていないことなど家庭的な要因もある。

又、現在は、子どもの時に「気になっていた子」が「気になる親」になっているケースが多い。保護者自身のメンタルがしんどくなっている。

生育歴や家庭背景を知った上で、どんな風にアプローチしていけばよいか、事務所職員、専門機関とも連携しながら考えていくことが大切である。

●「気になる子ども・保護者」をめぐって、何か問題や困ったことがあった時に、気軽に共有できる校区でありたい。そのためにも今後とも丁寧な情報交換していくことを参加者で確認した。

●子どもや保護者の困り感に小学校の担任も十分に手がまわっていない状況。公的な機関を使いつつ、切れ目なく子ども保護者を見守り支え続けることが大事。保護者がこの園、この小学校に預けていれば安心という実感が持てることをめざしたい。

○短い時間での講演と交流会だったが、今後も厳しい家庭や困り感のある子どもたちを幼保小の切れ目なく支援できる連携のあり方や子どもの見方を共有していくことの必要性を共通確認できた連絡会となった。

# 豊南・高川小学校区

【参加人数】小学校(6)名 こども園(10)名 幼稚園(4)名

## 1、 基調とした発表

<豊南小学校より>

○入学時の児童の実態

良い面…素直にごめんねやありがとうが言え、友達に優しい。何事もやりたがり学校生活を楽しんでいる。

課題…友達に自分の思いを言葉で伝えられず言い方がきつかったり手が出てしまう子がいる。最後まで人の話を聞くのが苦手で集中力が続かない。文字の読み書きの個人差が大きい。新しいことに対しての不安が強く精神的に弱い子が多い

○4月からの取り組みの様子

5月頃には45分間自分の席に座って活動できるようになった。不安が強いので何かを質問しにくる子どもが多いが作品展は集中して取り組んでいた。あったことは書けるが気持ちを書くのは難しい。今何をすればよいか自分で考えて行動することが苦手。

## 2、 話し合った内容

○新しいことに対する不安が強い、自信がない

先生についていたり周りに悟られたくなくて威圧的になる。

不安でひとつひとつ確認する。自分で考える力が弱い。精神的に強い子どもと弱い子どもの差が大きい。不安なことは一緒に取り組むことで、できることが増え自信がつく

マニュアル化されることが多く保護者も確認していく時代。こちらから言うだけではなく保護者と一緒に考え、保護者が方法を見つけるようにしている

○学力面

幼稚園・こども園では、かるた・ゆうびんごっこ・絵本の読み聞かせを行い、文字に興味を持てるようにしているが、興味を持たない子どももいる。興味を持つタイミングがないとそのまま行ってしまう。小学校までに自分のなまえが読めて書けるのが目標。

文字が読めたら楽しい・便利がわかるようにしていきたい。

○家庭の問題

家庭的にしんどいことが多く、なかなかすすめていけないが、保護者も丸ごと受け止め、すすめていかなければならない。家庭の問題が子ども達に影響する。保護者に言っても変わるのはなかなか難しいので、子どもが自信を持ち、力をつけていけるよう経験をしていくことが大切。

## 3、 今後の課題・まとめ

子どもは純粋。その純粋さを大切にしていきたい。目の輝きを失わない為には前向きでないといけない。こんなことをしたいという動機づけが大切。その為には体験すること・自信をもつこと・道をつけてやること。保護者も肯定的な言葉をかけてもらうのを求めている。子どもの課題は保護者への課題とつながっている。